Ⅱ章　史跡カリンバ遺跡の位置と環境

１．恵庭市の地理・歴史的環境

（１）位置と地形

恵庭市は北海道の中央、石狩平野の南部に所在し、北緯42°47′～43°00′、東経141°14′～141°39′に位置する（図５）。道都札幌市と新千歳空港のある千歳市とのほぼ中間にあたる。市域の東側は平野で、千歳川を挟んで長沼町へと続く。西側は市街から離れるにつれ丘陵から山岳地帯となり、札幌市に接する。南方は千歳市、北方は北広島市に接している（恵庭市　1979）。市域は東西34km、南北23kmの広がりをもち、総面積は294.87㎢。土地利用状況は、総面積のうち46％を占める山林がもっとも多く、次いで田が10％、畑と宅地がそれぞれ５～６％を占めている（表３）（恵庭市企画振興部企画調整課　2010）。

表３　恵庭市の土地利用状況

（各年1月1日）

地　目	19年 ㎡	19年 構成比％	20年 ㎡	20年 構成比％	21年 ㎡	21年 構成比％
田	29,040,904	9.8	29,039,826	9.8	29,038,367	9.8
畑	16,374,330	5.6	16,340,881	5.5	16,303,893	5.5
宅　地	15,793,316	5.5	15,905,608	5.4	15,918,157	5.4
池　沼	19,153	0.0	25,449	0.0	25,449	0.0
山　林	134,857,000	45.7	134,826,863	45.7	134,505,470	45.6
牧　場	－	－	－	－	－	－
原　野	364,373	0.1	484,973	0.2	465,246	0.2
雑種地	10,125,708	3.4	10,236,257	3.5	10,306,644	3.5
その他	88,297,343	29.9	88,012,270	29.8	88,308,901	29.9
計	294,872,127	100.0	294,872,127	100.0	294,872,127	100.0

<資料>総務部税務課

（２）地質

恵庭地方の地殻は第三紀層をおおって、そのほとんどが火山性の地質で成り立っている。そしてこの火山性のものは第四紀火山噴出物で、支笏湖を中心としたいわゆる支笏系山岳群の噴出物である。第四紀火山噴出物は支笏火山噴出物、風不死火山噴出物、恵庭火山噴出物、樽前火山噴出物に分けられる。支笏火山噴出物は、約５万年前から約４万２千年前にかけて支笏火山が爆発して噴出した火山灰や軽石で、特に最後の噴火は凄まじいものであった。火山灰は遠く網走でも約10㎝の厚さで堆積し、軽石流は札幌から白老の広い範囲に押し出され、恵庭市内でも数ｍから数十ｍ堆積している。支笏火山の噴火後支笏湖の周辺では、まず２万８千年前から２万年前に風不死火山が活動し、引き続いて恵庭火山が１万９千年前から１万６千年前頃まで活動して降下軽石が堆積した。そして最後に樽前山が８千９百年前に爆発後、現在まで断続的に噴火を繰り返している。（恵庭市　1979、千歳市2010）。

（３）気象

北海道の気候は冷帯に属し、年間を通じて気温と湿度が低く、四季の変化がはっきりし

ている。道内の気候の区分は道南・日本海沿岸・太平洋沿岸・オホーツク海沿岸・内陸の５つのエリアに分けられるが、恵庭市は日本海沿岸より太平洋沿岸の特色が多く見受けられる。春から夏にかけては太平洋方面の影響を受け、曇天の日が多くみられる。冬期間は

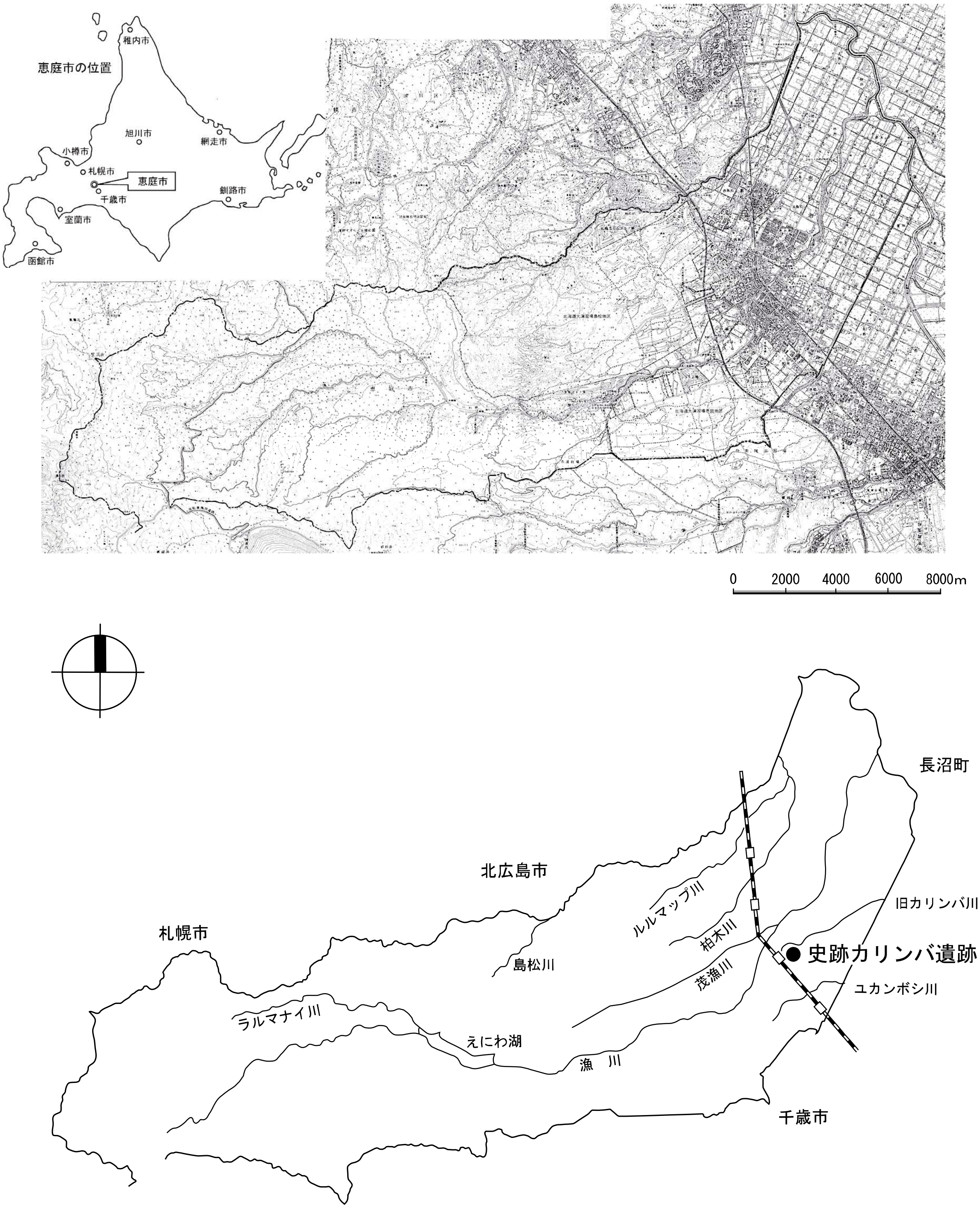

図５　恵庭市の位置

寒冷であるが、積雪は北西に隣接する北広島市や札幌市と比べてやや少ない傾向にある（表４）（恵庭市企画振興部企画調整課　2010)。

表４　恵庭市の気象概況

（各年中）

年	気温（℃）平均	最高	最低	降水量 mm	最深積雪 cm	平均風速 m／s
平成10	6.8	29.9	-25.4	1,008	75	2.1
11	7.4	34.3	-23.4	1,018	84	2.1
12	7.0	31.8	-20.7	1,392	97	2.1
13	6.1	30.3	-26.6	1,117	96	2.1
14	7.0	28.3	-22.0	952	70	2.0
15	6.8	28.3	-24.7	904	55	2.0
16	7.5	32.9	-21.5	973	90	1.9
17	6.7	31.9	-22.6	1,179	92	1.8
18	7.0	33.1	-22.3	1,181	115	2.0
19	7.4	33.5	-18.5	921	81	1.9
20	7.3	28.7	-22.7	822	102	1.9
21	7.5	30.6	-19.8	1,087.5	70	2.0

（各月中）

年・月	気温（℃）平均	最高	最低	降水量 mm	最深積雪 cm	平均風速 m／s
21.1月	-3.8	7.0	-19.6	48.0	49	2.0)
2	-4.6	7.6	-19.8	77.5	70	2.3
3	-0.1	7.9	-18.0	51.5	54	2.6
4	5.9	23.6	-6.2	53.5	0	2.7
5	11.9	26.5	-1.1	40.0	0	2.5
6	15.4	27.6	8.5	196.0	0	1.8
7	18.0	26.9	12.3	203.5	0	1.4
8	19.7	30.6	10.3	103.5	0	1.4
9	15.8	24.3	4.1	62.0	0	1.5
10	10.7)	22.0)	-1.1)	82.5)	0	2.0)
11	3.6	17.4	-8.5	97.0	5	2.2
12	-2.8	10.4	-16.6	72.5	31	1.9

〈資料〉気象庁のホームページより
注）　）は準正常値

（４）植物

恵庭市の植生は標高の高い所から順にハイマツ群落、ダケカンバ、ハンノキ、ナナカマドの上部広葉樹林、エゾマツ、トドマツ、ミズナラ、ニレ、イタヤカエデ、カシワ、シナノキ等の多種が混交する針広混交林となっており、植林地以外には主にクマザサ、チシマザサを林床とした、北海道中央部を象徴する林相となっている（恵庭市生活環境部環境課　2010)。

（５）動物

鳥獣類の生息状況は、市内で最も自然が残る盤尻地区で平成 14（2002）年に独自調査がなされている。その結果、鳥類 67 種、ほ乳類９種（ネズミ類を除く）を確認したが、これに過去の調査も付け足すと、鳥類 84 種、ほ乳類 13 種（ネズミ類を含む）が確認されている（表５）。

なお、表５は盤尻地区で確認されたものについての一覧であり、盤尻地区以外の平野部、農村部も含めると、ハクチョウ等のガン・カモ類、ヒバリやノビタキといった平地を好む鳥類等生息種類数はさらに多くなり、本市全体では優に 100 種類を超える鳥類が生息していると考えられる（恵庭市生活環境部環境課　2003・2010)。

昆虫は、平成３（1991）年から４年にかけて市内でみられた蝶が報告されており、シジミチョウ科、アゲハチョウ科、シロチョウ科、タテハチョウ科、ジャノメチョウ科、セセリチョウ科の蝶が確認されている（恵庭自然研究会　1994)。

水生生物は、市内最大の川である漁川で平成４（1992）年から 12（2000）年に数回調査が行われ、魚類 12 種、甲殻類２種、水生昆虫類 21 種、ウズムシ類１種の計 32 種が確認された。魚類ではスナヤツメ、サクラマス（ヤマメ）、オショロコマ、ニジマス、ウグイ、エゾウグイ、モツゴ、ギンブナ、フクドジョウ、ハナカジカ、イバラトミヨ、エゾトミヨがみつかっている（恵庭自然研究会　1997)。

表５-1　盤尻地区での鳥獣確認リスト

鳥　類　確　認　種				
No.	目名	科名	種名	学名
1	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	*Tachybaptus ruficollis*
2	コウノトリ	サギ	アオサギ	*Ardea cinerea*
3	カモ	カモ	オシドリ ◆	*Aix galericulata*
4			コガモ	*Anas crecca*
5	タカ	タカ	トビ	*Milvus migrans*
6			オジロワシ △★◇◎	*Haliaeetus albicilla*
7			オオタカ ■☆◎	*Accipiter gentilis*
8			ツミ	*Accipiter gularis*
9			ハイタカ □☆	*Accipiter nisus*
10			チュウヒ ■☆	*Circus spilonotus Kaup*
11		ハヤブサ	チョウゲンボウ	*Falco tinnunculus Linnaeus*
12	キジ	ライチョウ	エゾライチョウ ◆	*Tetrastes bonasia*
13		キジ	コウライキジ	*Phasianus colchicus karpowi*
14	チドリ	シギ	オオジシギ □◆	*Gallinago hardwickii*
15	ハト	ハト	キジバト	*Streptopelia orientalis*
16			アオバト	*Sphenurus sieboldii*
17	カッコウ	カッコウ	ジュウイチ	*Cuculus fugax*
18			カッコウ	*Cuculus canorus*
19			ツツドリ	*Cuculus saturatus*
20	フクロウ	フクロウ	コノハズク	*Otus scops*
21	ヨタカ	ヨタカ	ヨタカ ◆	*Caprimulgus indicus*
22	アマツバメ	アマツバメ	ハリオアマツバメ	*Hirundapus caudacutus*
23			アマツバメ	*Apus pacificus*
24	ブッポウソウ	カワセミ	ヤマセミ ◆	*Ceryle lugubris*
25			カワセミ	*Alcedo atthis*
26	キツツキ	キツツキ	ヤマゲラ	*Picus canus*
27			クマゲラ ■☆◇	*Dryocopus martius*
28			アカゲラ	*Dendrocopos major*
29			オオアカゲラ ▽	*Dendrocopos leucotos*
30			コゲラ	*Dendrocopos kizuki*
31	スズメ	ツバメ	ショウドウツバメ	*Riparia riparia*
32			イワツバメ	*Delichon urbica*
33		セキレイ	キセキレイ	*Motacilla cinerea*
34			ハクセキレイ	*Motacilla alba*
35			セグロセキレイ	*Motacilla grandis*
36			ビンズイ	*Anthus hodgsoni*
37		ヒヨドリ	ヒヨドリ	*Hypsipetes amaurotis*
38		モズ	モズ	*Lanius bucephalus*
39		レンジャク	キレンジャク	*Bombycilla garrulus*
40		カワガラス	カワガラス	*Cinclus pallasii*
41		ミソサザイ	ミソサザイ	*Troglodytes troglodytes*
42		ツグミ	コルリ	*Luscinia cyane*
43			ノビタキ	*Saxicola torquata*
44			トラツグミ	*Zoothera dauma*
45			クロツグミ	*Turdus cardis*
46			アカハラ	*Turdus chrysolaus Temminck*
47		ウグイス	ヤブサメ	*Urosphena squameiceps*
48			ウグイス	*Cettia diphone*
49			エゾセンニュウ	*Locustella fasciolata*
50			メボソムシクイ	*Phylloscopus borealis*
51			エゾムシクイ	*Phylloscopus tenellipes*
52			センダイムシクイ	*Phylloscopus coronatus*
53			キクイタダキ	*Regulus regulus*
54		ヒタキ	キビタキ	*Ficedula narcissina*
55			オオルリ	*Cyanoptila cyanomelana*
56			サメビタキ	*Muscicapa sibirica Gmelin*
57			コサメビタキ	*Muscicapa dauurica Pallas*
58		エナガ	シマエナガ	*Aegithalos caudatus japonicus*
59		シジュウカラ	ハシブトガラ	*Parus palustris*
60			コガラ	*Parus montanus*

表５-２　盤尻地区での鳥獣確認リスト

No.	目名	科名	種名	学名
61	スズメ	シジュウカラ	ヒガラ	*Parus ater*
62			ヤマガラ	*Parus varius*
63			シジュウカラ	*Parus major*
64		ゴジュウカラ	ゴジュウカラ	*Sitta europaea*
65		キバシリ	キバシリ	*Certhia familiaris*
66		メジロ	メジロ	*Zosterops japonica*
67		ホオジロ	ホオジロ	*Emberiza cioides*
68			カシラダカ	*Emberiza rustica Pallas*
69			アオジ	*Emberiza spodocephala*
70			クロジ	*Emberiza variabilis*
71		アトリ	アトリ	*Fringilla montifringilla*
72			カワラヒワ	*Carduelis sinica*
73			マヒワ	*Carduelis spinus*
74			イスカ	*Loxia curvirostra*
75			ウソ	*Pyrrhula pyrrhula*
76			イカル	*Eophona personata*
77			シメ	*Coccothraustes coccothraustes*
78		ハタオリドリ	ニュウナイスズメ	*Passer rutilans*
79		ムクドリ	コムクドリ	*Sturnus philippensis*
80			ムクドリ	*Sturnus cineraceus*
81		カラス	カケス	*Garrulus glandarius*
82			ミヤマカケス	*Garrulus glandarius brandtii*
83			ハシボソガラス	*Corvus corone*
84			ハシブトガラス	*Corvus macrorhynchos*

ほ　乳　類　確　認　種

No.	目名	科名	種名	学名
1	モグラ	トガリネズミ	エゾトガリネズミ	*Sorex caecutiens saevus*
2	ウサギ	ウサギ	エゾユキウサギ	*Lepus timidus ainu*
3	ネズミ	リス	エゾリス	*Sciurus vulgaris orientis*
4			エゾシマリス	*Tamias sibiricus lineatus*
5			エゾモモンガ	*Pteromys volans orii*
6		ネズミ	エゾヤチネズミ	*Clethrionomys rufocanus bedfordiae*
7			アカネズミ	*Apodemus speciosus*
8			ヒメネズミ	*Apodemus argenteus*
9	ネコ	クマ	エゾヒグマ　▼	*Ursus arctos yesoensis*
10		アライグマ	アライグマ	*Procyon lotor*
11		イヌ	キタキツネ	*Vulpes vulpes schrencki*
12		イタチ	ホンドテン又はエゾクロテン	*Martes*
13	ウシ	シカ	エゾシカ	*Cervus hortulorum yesoensis*

注）１．種名の右横の記号は重要種を表す。

(1)環境省レッドリスト1998	(2)北海道レッドリスト2001
①絶滅危惧ⅠA類（ＣＲ）-▲ ②絶滅危惧ⅠB類（ＥＮ）-△ ③絶滅危惧Ⅱ類（ＶＵ）---■ ④準絶滅危惧（ＮＴ）-----□ ⑤情報不足（ＤＤ）-------DD	①絶滅危機種（Ｃｒ）-----● ②絶滅危惧種（Ｅｎ）-----★ ③絶滅危急種（Ｖｕ）-----☆ ④希少種（Ｒ）-----------◆ ⑤地域個体群（Ｌｐ）-----▼ ⑥留意種（Ｎ）-----------▽
(3)文化財保護法 ①天然記念物-------------◇	
(4)絶滅の恐れのある野生動物種の種の保存に関する法律 ①国内希少野生動物種-----◎	

２．種名及び配列は、鳥類については「日本鳥類目録」（日本鳥学会2000）を、ほ乳類については「日本産野生生物目録」（環境庁1993）を参考にした。

参考文献・調査記録等

- 「恵庭の鳥類」（1979 小山政弘）
- 「みずなら第二号、緑のふるさと森林公園ほ乳類調査」（1993 泉健司／恵庭自然研究会）
- 「みずなら第二号、恵庭の野鳥調査1992」（1993 高橋正彰・美智子／恵庭自然研究会）
- 「みずなら第三号、恵庭の野鳥調査1993」（1994 高橋正彰・美智子／恵庭自然研究会）
- 「みずなら第四号、恵庭の野鳥調査1994」（1995 高橋美智子／恵庭自然研究会）
- 「みずなら第五号、恵庭の野鳥調査1995」（1996 高橋美智子／恵庭自然研究会）
- 「漁川ダムの四季」（1996 北海道開発局石狩川開発建設部漁川ダム管理所）
- 「恵庭市盤尻地区鳥獣生息状況基礎調査報告書」（2003 恵庭市生活環境部環境衛生課）

（６）歴史的環境

恵庭市におけるヒトの歴史は旧石器時代にさかのぼる。ユカンボシ川流域のユカンボシＥ10 遺跡や茂漁川流域の茂漁４遺跡等で、後期旧石器時代の黒曜石細石刃核、黒曜石製や頁岩製のスクレイパー等が発見されている（市教委　1997a、(財) 北海道埋蔵文化財センター　1998)。

縄文時代には遺跡数も大幅に増加し、市内を北東方向に流れる小河川である島松川、ルルマップ川、柏木川、茂漁川、旧カリンバ川、ユカンボシ川等の河岸段丘で遺跡が多数みつかっている。特に後期から晩期にかけては柏木川４遺跡、柏木Ｂ遺跡、史跡カリンバ遺跡、西島松５遺跡で特徴的な遺構・遺物がみつかっている。柏木川４遺跡は、縄文時代最大級の編み布（後期後葉）と赤ちゃんの手形･足形付土製品（晩期後葉）が出土し話題となった。柏木Ｂ遺跡は周堤墓と呼ばれる後期後葉の共同墓地が初めて全面発掘され、全国的な注目を集めた。史跡カリンバ遺跡と西島松５遺跡では、後期後葉から晩期前葉にかけて、漆塗装身具や玉等が多数副えられた豪華な副葬品を持つ土坑墓が確認された。これらの事実は縄文時代後期後葉から晩期後葉にかけて、豊かな精神性を持った独自の縄文文化が恵庭の地で特に栄えていたことを示している（市教委　1981・2003a・b・2004、(財) 北海道埋蔵文化財センター　2007・2009)。

続縄文時代から擦文時代にかけては多くの墓がみつかっている。なかでも続縄文時代後葉から擦文時代前期にかけては、西島松５遺跡やユカンボシＥ７遺跡等で金属製品が多数副葬された土坑墓群、同じく西島松５遺跡で周溝墓、柏木東遺跡で北海道式古墳、柏木川遺跡（現「柏木川１遺跡」）で盛土墓、茂漁２遺跡で和同開珎が確認されている。これらは、当時の北海道と東北地方の関係性を考える上で欠かせない重要な遺跡であり、また当時の恵庭が北海道の中心地であった可能性も示唆している（後藤・曾根原　1934、恵庭町教育委員会　1966、北海道文化財保護協会　1971、(財) 北海道埋蔵文化財センター　2002)。

アイヌ文化期は、中世と考えられる遺跡はみつかっていないが、近世の遺跡は史跡カリンバ遺跡、カリンバ１・２・４遺跡といった黄金地区を始め、市内各所で平地住居跡、高床倉庫、土坑墓が確認されている（市教委　1987・1989・1997b・1998・1999・2000・2001a･b・2003a～c・2005a～c)。

市内の地名が文献史料上に現れるのは、元禄 13（1700）年に松前藩が江戸幕府に奉納した「松前島郷帳」とその付図「元禄御国絵図」で、いちゃ里（漁）としままっぷ（島松）の地名が記されている。漁と島松は、松前藩が漁場およびアイヌとの交易の拠点として定めた「場所」が開設されており、同じく元禄 13 年の「松前家臣支配所持名前」には「伊茶利布登鳥屋」、「シユマ満布鳥屋」の名が記されている。

記録に残る中で恵庭に来た最初の和人は飛騨屋武川久兵衛で、宝暦５（1755）年漁川上流の空沼岳山麓でエゾマツの伐採を始めている。文化２（1805）年には勇払場所惣支配人山田文右衛門が漁太に漁場を設け、運上屋を建設。文化３（1806）年になると幕府が漁太に通行屋を設ける等、和人が徐々に進出してきた。文化４（1807）年には幕府御小人目附田草川伝次郎が石狩川から千歳川をさかのぼり、漁太、釜加、長都等を調査した。文化８（1811）年には勇払場所惣支配人山田文右衛門が、サケ・マス加工品輸送の必要性もあって、美々～千歳～漁太間に荷車の通れる道路を作った。弘化３（1846）年には有名な松浦武四郎が２回目の蝦夷地探検で漁太と島松を訪れ「再航蝦夷日誌」に記録を残している。

それによると「シママップには番屋とともにアイヌの住居が３、４軒あり、土地が肥沃で野菜が良くできる。またイザリブトには大きな番屋や蔵等があり、アイヌの住居も５、６軒ある。アイヌは肥沃な土地で豆、ヒエ、アワ、ジャガイモ等を多く作り、それが豊かに実っている。また熊や鷲を多く飼い、鶴も多い。また、ヒシの実や鹿を普段の食料としている」といった内容が書かれている。

明治２（1869）年になると、明治新政府はそれまで蝦夷地と呼ばれていたアイヌの土地を北海道と改め、開拓使を設置した。そして本州から多数の移民を集めて、内陸部の開拓を進めた。開拓使は全道を 11 国 86 郡に分け、恵庭は胆振国千歳郡に組み入れられた。同年千歳郡は勇払郡、夕張郡とともに高知藩の支配下に入り、翌年には高知藩から 70 人余りが入植したが、明治４（1871）年廃藩置県の実施により高知藩の開拓はわずか２年で終了した。明治６（1873）年には函館～札幌間の道路が開通し、島松に駅逓が置かれた。その後明治 19（1886）年に山口県和木、岩国地方から 358 人、翌年には萩藩士族 219 人が集団入植し、恵庭の本格的な開拓が始まった。明治 26（1893)年には石川県の農場会社加越能開耕社が恵庭を含む千歳及び馬追の原野に農場を設立し、加賀（石川)、越中（富山)、能登（石川）から小作農を募集し、78 戸が移住した。

明治 30（1897）年、それまで千歳郡各村戸長役場に属していた漁村と島松村が独立し、恵庭に初めて独立した役場「漁外１カ村戸長役場」が設置された。その９年後の明治 39（1906）年には恵庭村が誕生した。明治 37（1904）年の日露戦争後、北海道への移民が増えると恵庭の人口も急増し、明治 40（1907）年には人口が５千人を超えた。大正に入ると林業が盛んになり、大正 15（1926）年には苗穂～沼ノ端間に鉄道が開通した。市内には恵庭と島松に駅が作られ、農産物、木材、軟石等の輸送に威力を発揮し、産業振興はもちろん、人口増加等恵庭の発展に大きな弾みを付けた。その後暗い戦争の時代があったが、道都札幌に近い恵庭は地の利を活かし人口は増え続けた。昭和 26（1951）年には村から町に、昭和 45（1970）年には市になり、平成 23 年２月末現在では 68,856 人が恵庭で生活している（恵庭市　1979・1997)。

（７）埋蔵文化財包蔵地

市内には現在 125 か所の埋蔵文化財包蔵地が確認されている（図６)。市内を流れる主な川は北西側から島松川、ルルマップ川、柏木川、茂漁川、漁川、ユカンボシ川である。これらの中小河川はいずれも最終的に千歳川へ合流する。また漁川とユカンボシ川の間には旧カリンバ川とトーウイソ川が流れていたが、明治以降の開拓でほぼ消滅した。図６で見てとれるように市内最大の河川である漁川流域では遺跡があまり確認されていない。遺跡は小河川沿いの河岸段丘上に立地し、とりわけ柏木川やユカンボシ川では密度の濃い分布状況を示している。

番号	遺跡名	番号	遺跡名	番号	遺跡名	番号	遺跡名	番号	遺跡名
1	恵庭公園	26	柏木川9	51	西島松18	76	ルルマップ川1	101	島松沢5
2	ユカンボシE1	27	柏木川10	52	島松寿町1	77	ルルマップ川2	102	島松沢6
3	ユカンボシE2	28	柏木川11	53	島松寿町2	78	ルルマップ川3	103	島松沢7
4	ユカンボシE3	29	柏木川12	54	島松仲町	79	ルルマップ川4	104	カリンバ1
5	ユカンボシE4	30	柏木工業団地1	55	島松東町	80	ルルマップ川5	105	カリンバ2
6	ユカンボシE5	31	柏木工業団地2	56	島松旭町1	81	ルルマップ川6	106	カリンバ4
7	ユカンボシE6	32	柏木工業団地3	57	島松旭町2	82	ルルマップ川7	107	柏木川13
8	ユカンボシE7	33	柏木工業団地4	58	島松旭町3	83	ルルマップ川8	108	ユカンボシE8
9	柏木A	34	西島松1	59	南島松1	84	ルルマップ川9	109	ユカンボシE9
10	柏木B	35	西島松2	60	南島松2	85	ルルマップ川10	110	シマコツナイE1
11	柏木C	36	西島松3	61	南島松3	86	ルルマップ川11	111	茂漁3
12	柏木沢	37	西島松4	62	南島松4	87	ルルマップ川12	112	茂漁4
13	茂漁チャシ	38	西島松5	63	南島松5	88	ルルマップ川13	113	茂漁5
14	柏木東	39	西島松6	64	中島松1	89	ルルマップ川14	114	ルルマップ15
15	茂漁1	40	西島松7	65	中島松2	90	ルルマップ川15	115	ユカンボシE10
16	茂漁2	41	西島松8	66	中島松3	91	下島松5	116	茂漁6
17	柏木川水源地	42	西島松9	67	中島松4	92	下島松6	117	ユカンボシE11
18	柏木川1	43	西島松10	68	中島松5	93	島松チャシB	118	ユカンボシE12
19	柏木川2	44	西島松11	69	中島松6	94	島松チャシC	119	茂漁7
20	柏木川3	45	西島松12	70	中島松7	95	漁川1	120	茂漁8
21	柏木川4	46	西島松13	71	下島松1	96	カリンバ	121	ユカンボシE13
22	柏木川5	47	西島松14	72	下島松2	97	島松沢1	122	ユカンボシE14
23	柏木川6	48	西島松15	73	下島松3	98	島松沢2	123	ルルマップ川16
24	柏木川7	49	西島松16	74	下島松4	99	島松沢3	124	柏木川14
25	柏木川8	50	西島松17	75	穂栄	100	島松沢4	125	下島松7

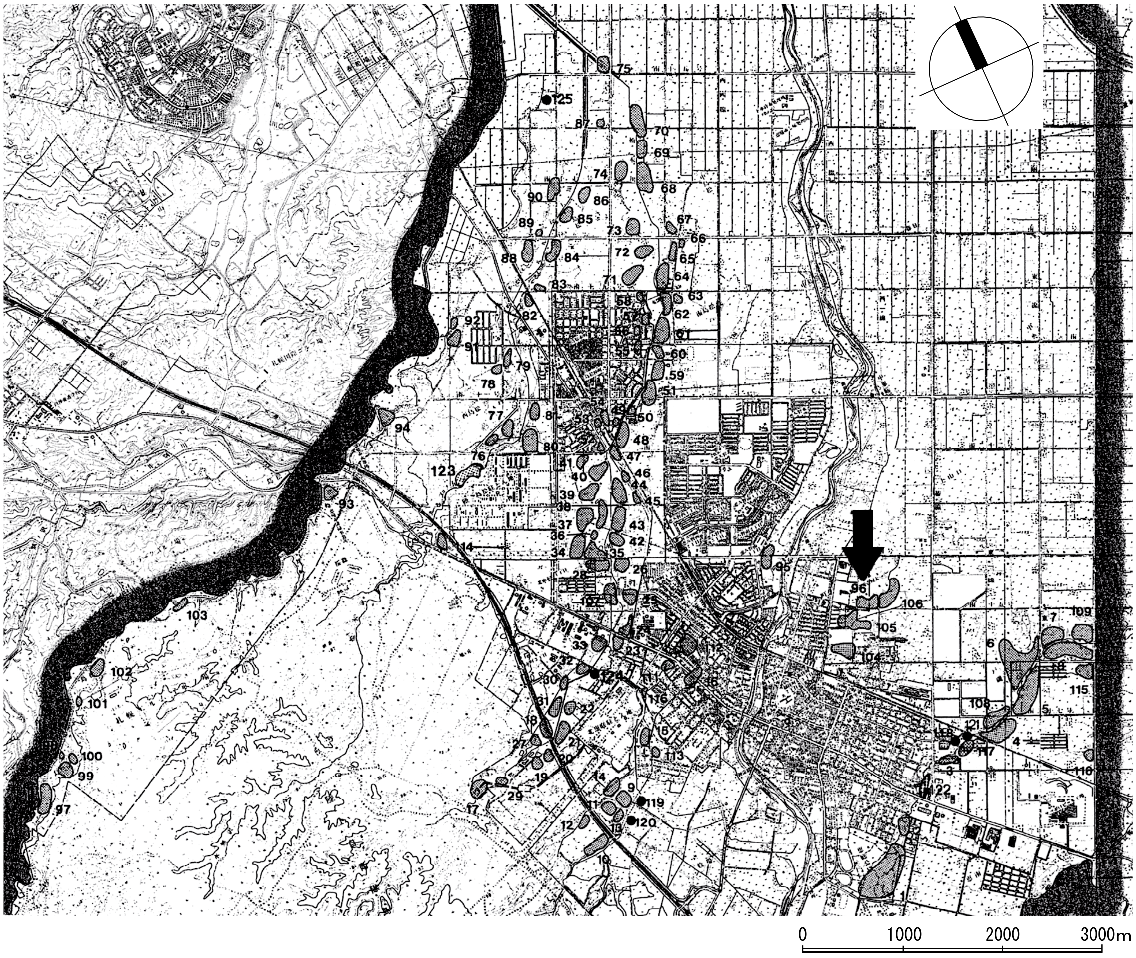

図６　恵庭市埋蔵文化財包蔵地一覧と包蔵地図（矢印が史跡カリンバ遺跡）

（８）史跡カリンバ遺跡関連の市内遺跡（図７）

①**名称**：西島松５遺跡

所在地：西島松 327 ほか。国道 36 号線恵庭バイパスと道道江別恵庭線が交差する付近に位置する。柏木川とキトウシュメンナイ川に挟まれた標高 25mの低位段丘上に所在する。

時代：縄文時代～アイヌ文化期

史跡との関連：史跡とほぼ同時期で、漆製品や玉等が副葬された土坑墓が多数みつかった。

第１次調査

調査年度：昭和 37（1962）・39（1964）年度

調査機関名：恵庭町教育委員会

調査原因：学術調査

第２次調査

調査年度：平成 12（2000）～16（2004）年度

調査面積：21,210 ㎡

調査機関名：（財）北海道埋蔵文化財センター

調査原因：緊急調査（柏木川改修工事）

特記事項：第２次調査で縄文時代後期後葉～晩期前葉の土坑墓 287 基を確認。副葬品として漆製品 141 点（櫛 39 点、環状製品 27 点ほか）、玉･垂飾類 1,519 点、サメの歯 293 点、石棒６点、土器と土製品類多数が出土。玉･垂飾類のほとんどは緑泥岩製。

報告書：恵庭町教育委員会　1966、（財）北海道埋蔵文化財センター　2002・2003・2004・2006a・2008・2009

②**名称**：柏木Ｂ遺跡

所在地：柏木町 446 ほか。道央自動車道と茂漁川が交差する付近に位置する。茂漁川中流左岸、標高 58～67ｍの中位段丘上にある。

時代：縄文～続縄文時代

史跡との関連：史跡とほぼ同時期で、漆製品や玉等が副葬された土坑墓がみつかった。

調査年度：昭和 52（1977）～55（1980）年度

調査面積：11,186.22 ㎡

調査機関名：市教委

調査原因：緊急調査（農地基盤整備）

特記事項：第Ⅰ地点で縄文時代後期後葉の周堤墓５基を検出し、道内初の全面発掘調査を行った。その結果、周堤墓に伴う土坑墓の副葬品として石棒 14 点、ヒスイを主とする玉類 145 点、石斧等を確認した。第Ⅱ地点で縄文時代後期後葉～晩期初頭の土坑墓 40 基を検出し、副葬品として漆塗櫛７点、蛇紋岩や滑石を主体とする玉類 181 点等を確認した。漆製品は櫛７点のほかに弓や耳飾りも出土しており計 16 点になる。

報告書：市教委　1981

図７　史跡カリンバ遺跡と関連遺跡（S=1/40,000）

③**名称**：柏木川４遺跡

所在地：柏木町 595 ほか。道央自動車道と柏木川が交差する付近に位置する。柏木川上流右岸、標高 42～47ｍの低位段丘上にある。

時代：縄文時代～アイヌ文化期

史跡との関連：縄文時代後期の編み布と縄文時代晩期の手形・足形付土製品がみつかった。

調査年度：平成 16（2004）～18（2006）年度

調査面積：35,210 ㎡

調査機関名：（財）北海道埋蔵文化財センター

調査原因：緊急調査（柏木川改修工事）

特記事項：低湿地出土の編み布は大きさが 125×60 ㎝と縄文時代最大級で、時期は後期後葉である。綟り編という技法によって編まれ、意図的に模様を表現した世界的にも類例を見ない稀有の資料である。縄文人の衣装であった可能性も考えられている。段丘縁の墓と推定される土坑からは、赤ちゃんの手形・足形付土製品各１点、土器５点、石斧１点が出土した。縄文時代晩期後葉の所産で、手形・足形付土製品は１歳未満の赤ちゃんのものと推測されている。手形・足形付土製品が墓と推定される土坑からセットで出土し、また、縄文晩期まで作られていたことが明らかになったことは重要な発見である。

報告書：（財）北海道埋蔵文化財センター　2005・2006b・2007・2010

④**名称**：カリンバ１・２・４遺跡

所在地：黄金中央、黄金南。旧カリンバ川とトーウイソ川に挟まれた標高 23～29ｍの低位段丘上にある。

時代：縄文時代～アイヌ文化期

史跡との関連：史跡に隣接して位置する。

調査年度：昭和 61（1986）・62（1987）、平成７（1995）～13（2001）年度

調査面積：75,082 ㎡

調査機関名：市教委

調査原因：緊急調査（土地区画整理事業）

特記事項：竪穴住居跡は縄文時代が 148 基、擦文時代が３基あり、アイヌ文化期は建物跡が 107 基、墓が 14 基確認されている。縄文時代早期後半にはカリンバ２遺跡で大規模な集落跡、縄文時代中期から後期初頭にかけては、カリンバ１・２遺跡で長さ 10ｍを超える大型住居跡が 12 基みつかっている。カリンバ２遺跡の土坑から出土した両頭石槍は平成 17 年６月 16 日付けで市指定文化財となっている。

報告書：市教委　1987・1989・1997b・1998・1999・2000・2001 a・b・2003c・2005a～ｃ

（９）交通

隣接する千歳市には新千歳空港があり、東京・大阪を始めとする全国各都市に直行便が就航している。鉄道は北海道旅客鉄道（JR 北海道）があり、札幌市と苫小牧市を結ぶ千歳線が市街中心部を縦断している。市内には北から島松駅、恵み野駅、恵庭駅、サッポロビ

ール庭園駅の４駅がある。このうち恵庭駅には快速列車が停車し、札幌駅とは日中約 15 分間隔、所要時間 23 分で、新千歳空港駅とは 13 分で結ばれている。船舶は恵庭から車で約 1 時間の所にある苫小牧港を利用して関東、東北地方からのアクセスが可能である。

高速道路は八雲町と士別市を結ぶ道央自動車道、千歳市から道東方面へ延びる道東自動車道が通る。市街西部を縦断する道央自動車道には恵庭インターチェンジがある。国道は札幌市から室蘭市へと至る国道 36 号線が市街中心部を縦断する。また、札幌市を起点とし伊達市を終点とする国道 453 号線が市西端を縦断する。 バスは北海道中央バス 、ジェイ・アール北海道バス、えにわコミュニティバス（eco バス)、恵庭市バスが市内外を結ぶ。近隣主要都市からの距離及び恵庭市と各都市間の自家用車における所要時間は表６の通りである。

表６　主要都市からの距離と時間（自家用車）

主要都市	距離（km）	時間
千歳市	9	12分
札幌市	31	38分
苫小牧市	36	37分
小樽市	70	58分
旭川市	160	１時間53分
函館市	276	３時間55分

＊千歳市以外は高速道路を使用

（10）博物館施設等

恵庭市には郷土資料館、図書館があり、生涯学習の拠点として重要な役割を果たしている（表７・８）。郷土資料館は南島松 157－２に所在する。恵庭開基 88 年の平成２ (1990) 年に開館し、平成 23（2011）年２月末現在で 18,062 点の資料が収蔵されている。現在、重要文化財である史跡カリンバ遺跡の漆塗装身具は収蔵室の恒温恒湿庫に保管している。

平成 21 年度は春と秋の年２回、史跡カリンバ遺跡重要文化財の特別公開を期間限定で実施し、漆塗装身具の実物を展示した。そのほかの特別展として、春に「柏木川４遺跡展」、夏に「柏木Ｂ遺跡展」、秋に「水害の歴史写真展」、冬に「新収蔵資料展」を行った。平成 22 年度は特別展として、春に「平成 21 年度遺跡発掘調査成果展」、夏に「恵庭の化石展」、冬に「新収蔵資料展」を行った。また、例年銀河観察会や自然観察会、せんべい焼きやソバ打ちといった体験学習会を開催する等、各種教育普及活動に努めている。

表７　平成19～21年度郷土資料館利用状況

（各年度）

年度	入館者数	世代別		市内外の別		開館日数（日）
		中学生以下	一般	市内	市外	
平成19	7,326	2,150	5,176	5,050	2,276	283
平成20	5,713	1,755	3,958	4,359	1,354	281
平成21	6,830	1,994	4,836	4,268	2,562	286

〈資料〉郷土資料館　　（単位：人）

表８　平成19～21年度図書館利用状況

年度	入館者数（人）	利用者数（人）	貸出冊数（冊）	市民一人あたりの貸出状況（冊/人）
平成19	303,878	115,821	579,869	8.53
平成20	309,825	121,469	613,515	8.96
平成21	310,349	122,108	611,803	8.93

〈資料〉図書館

２．黄金地区の地理・歴史的環境

（１）位置と地形

史跡カリンバ遺跡の所在する黄金地区はかつて戸磯地区の一部だった（図８・９）。旧戸磯地区は市内最大の河川である漁川右岸のうち、市道南24号の南側から道道江別恵庭線（旧国道36号線）辺りまでの呼称であったと考えられる。その後、戸数の増加に伴い、旧戸磯地区は昭和36（1961）年に黄金、福住、駒場町、昭和50（1975）年に和光町、平成19（2007）年には黄金中央、黄金南が分割された。

旧戸磯地区は恵庭市南東部、標高 20～35ｍの低位段丘上に位置する。南西から北東方向に向かって緩やかに低くなっており、その方向にかつては旧カリンバ川とトーウイソ川が流れていた。旧カリンバ川は直接千歳川に注ぎ、トーウイソ川はユカンボシ川に合流した後千歳川に流れていたが、明治以降の開拓により両河川はほぼ消滅した（恵庭市　1979、恵庭市戸磯町内会　1989）。

（２）地質

黄金地区の地質も市内の他地区同様、支笏湖を中心としたいわゆる支笏系山岳群の噴出物を基盤としている。表土の下に1739年に噴火した樽前火山噴出物（Ta-a）が残存する区域もある。Ta-aは残存状態が良好な所で厚さ15㎝ほど堆積するが、たいていは耕作により撹乱されている。表土やTa-aの下には厚さ30～40㎝ほどの黒色腐食土が堆積する。この腐食土中には２千７百年前から２千５百年前頃に噴火した樽前火山噴出物（Ta-c）が散在しており、その上下で３層に分層できる。その下には漸移層である暗褐色土が10～15㎝ほど堆積する。暗褐色土の下には１万９千年前から１万６千年前頃に噴火した恵庭火山噴出物（En-a）が１ｍ前後堆積する。さらにその下には約５万年前から約４万２千年前にかけて噴火した支笏火山噴出物（Spfa、Spfl）が厚く堆積する（恵庭市　1979、市教委　2003a、千歳市　2010）。

（３）植物

平成21年度にカリンバ遺跡における環境調査を行った。内容は史跡指定地内と史跡と密接に関連する用地内において、春と夏の２季に植物、動物及び水文環境を調査した（エヌエス環境株式会社　2009）。主な調査目的は植生調査であり、水文環境の調査は湧水と水路の位置、冠水箇所の現況を記録する程度の表面的なものである。

現地調査の結果、表９の通り65科200種の植物が確認された。

図８　史跡とその周辺（国土地理院発行２万５千分の１地形図「恵庭」に加筆）

図９　北海道仮製五万分一図「長都」（明治29年製版）と史跡カリンバ遺跡の位置

表９－１　史跡カリンバ遺跡　植物確認種目録

	科名	種名	学名	4月	5月	8月
1	トクサ	スギナ	*Equisetum arvense*	○	○	○
2		トクサ	*Equisetum hyemale*	○	○	○
3	ハナヤスリ	エゾフユノハナワラビ	*Botrychium multifidum* var. *robustum*	○	○	○
4	ゼンマイ	ヤマドリゼンマイ	*Osmunda cinnamomea* var. *fokiensis*			○
5	オシダ	オシダ	*Dryopteris crassirhizoma*	○	○	○
6		ミヤマベニシダ	*Dryopteris monticola*			○
7		タニヘゴ	*Dryopteris tokyoensis*			○
8	メシダ	エゾメシダ	*Athyrium brevifrons*		○	○
9		ミヤマシケシダ	*Deparia pycnosora*			○
10		クサソテツ	*Matteuccia struthiopteris*		○	○
11		コウヤワラビ	*Onoclea sensibilis* var. *interrupta*		○	
12	マツ	トドマツ	*Abies sachalinensis*	○	○	○
13		カラマツ	*Larix kaempferi*		○	○
14	イチイ	イチイ	*Taxus cuspidata*	○	○	○
15	クルミ	オニグルミ	*Juglans ailanthifolia*		○	○
16	ヤナギ	エゾノバッコヤナギ	*Salix hultenii* var. *angustifolia*			○
17		イヌコリヤナギ	*Salix integra*		○	○
18		エゾノカワヤナギ	*Salix miyabeana*		○	○
19		エゾノキヌヤナギ	*Salix pet-susu*			○
20		オノエヤナギ	*Salix sachalinensis*	○	○	○
21	カバノキ	ケヤマハンノキ	*Alnus hirsuta*			○
22		ハンノキ	*Alnus japonica*	○	○	○
23		シラカンバ	*Betula platyphylla* var. *japonica*	○	○	○
24	ブナ	カシワ	*Quercus dentata*	○		
25		ミズナラ	*Quercus mongolica* ssp. *crispula*	○	○	○
26	ニレ	ハルニレ	*Ulmus japonica*	○	○	○
27	クワ	ヤマグワ	*Morus australis*		○	○
28	イラクサ	ムカゴイラクサ	*Laportea bulbifera*			○
29	タデ	イヌタデ	*Persicaria longiseta*			○
30		イシミカワ	*Persicaria perfoliata*			○
31		ミゾソバ	*Persicaria thunbergii*		○	○
32		オオイタドリ	*Reynoutria sachalinensis*		○	
33		ヒメスイバ	*Rumex acetosella*	○		○
34		エゾノギシギシ	*Rumex obtusifolius*	○	○	○
35	ナデシコ	ミミナグサ	*Cerastium holosteoides* var. *angustifolium*		○	
36		マツヨイセンノウ	*Silene alba*			○
37		コハコベ	*Stellaria media*	○	○	○
38	アカザ	シロザ	*Chenopodium album*			○
39	モクレン	キタコブシ	*Magnolia praecocissima* var. *borealis*	○	○	○
40	マツブサ	チョウセンゴミシ	*Schisandra chinensis*			○
41	カツラ	カツラ	*Cercidiphyllum japonicum*		○	○
42	キンポウゲ	エゾトリカブト	*Aconitum yezoense*	○	○	○
43		ルイヨウショウマ	*Actaea asiatica*		○	
44		フクジュソウ	*Adonis ramosa*		○	
45		ヒメイチゲ	*Anemone debilis*	○		
46		ニリンソウ	*Anemone flaccida*	○	○	
47		エンコウソウ	*Caltha palustris* var. *enkoso*		○	
48		サラシナショウマ	*Cimicifuga simplex*			○
49	マタタビ	サルナシ	*Actinidia arguta*			○
50		ミヤママタタビ	*Actinidia kolomikta*			○
51	ケシ	クサノオウ	*Chelidonium majus* var. *asiaticum*	○	○	
52		エゾエンゴサク	*Corydalis ambigua*	○	○	
53		ムラサキケマン	*Corydalis incisa*		○	
54	アブラナ	ハルザキヤマガラシ	*Barbarea vulgaris*		○	
55		ナズナ	*Capsella bursa-pastoris*		○	
56		タネツケバナ	*Cardamine flexuosa*		○	
57		コンロンソウ	*Cardamine leucantha*	○	○	
58		オオバタネツケバナ	*Cardamine scutata*	○	○	
59		オランダガラシ	*Nasturtium officinale*			
60	ユキノシタ	ネコノメソウ	*Chrysosplenium grayanum*		○	
61		ノリウツギ	*Hydrangea paniculata*		○	○
62		ツルアジサイ	*Hydrangea petiolaris*		○	○
63		イワガラミ	*Schizophragma hydrangeoides*		○	
64	バラ	キンミズヒキ	*Agrimonia japonica*		○	○
65		カラフトダイコンソウ	*Geum macrophyllum* var. *sachalinense*		○	○
66		ズミ	*Malus toringo*		○	
67		キジムシロ	*Potentilla fragarioides* var. *major*		○	
68		ミツバツチグリ	*Potentilla freyniana*		○	
69		ミヤマザクラ	*Prunus maximowiczii*		○	○
70		チシマザクラ	*Prunus nipponica* var. *kurilensis*		○	
71		エゾノウワミズザクラ	*Prunus padus*		○	○

表９−２　史跡カリンバ遺跡　植物確認種目録

	科名	種名	学名	4月	5月	8月
72	バラ	エゾヤマザクラ	*Prunus sargentii*		○	○
73		シウリザクラ	*Prunus ssiori*		○	
74		ノイバラ	*Rosa multiflora*		○	
75		クマイチゴ	*Rubus crataegifolius*			○
76		ホザキナナカマド	*Sorbaria sorbifolia var. stellipila*		○	
77		ナナカマド	*Sorbus commixta*		○	○
78	マメ	ヤブマメ	*Amphicarpaea bracteeata* ssp. *edgeworthii* var. *japonica*			○
79		ヌスビトハギ	*Desmodium podocarpium* ssp. *oxyphyllum*			○
80		ヤマハギ	*Lespedeza bicolor*			○
81		ムラサキツメクサ	*Trifolium pratense*		○	○
82		シロツメクサ	*Trifolium repens*	○		○
83	カタバミ	エゾタチカタバミ	*Oxalis fontana*			○
84	フウロソウ	ゲンノショウコ	*Geranium thunbergii*			○
85		ミツバフウロ	*Geranium wilfordii*			○
86	ミカン	キハダ	*Phellodendron amurense*	○		○
87	ウルシ	ツタウルシ	*Rhus ambigua*		○	○
88	カエデ	カラコギカエデ	*Acer ginnala* var. *aidzuense*			○
89		エゾイタヤ	*Acer mono* var. *glabrum*		○	○
90		ヤマモミジ	*Acer palmatum* var. *matumurae*			○
91	ツリフネソウ	キツリフネ	*Impatiens noli-tangere*		○	○
92		ツリフネソウ	*Impatiens textori*			○
93	ニシキギ	オニツルウメモドキ	*Celastrus orbiculatus* var. *papillosus*		○	○
94		コマユミ	*Euonymus alatus* form. *Ciliato-dentatus*	○		
95		ツルマサキ	*Euonymus fortunei* var. *radicans*	○	○	○
96		ツリバナ	*Euonymus oxyphyllus*			○
97		マユミ	*Euonymus sieboldianus*		○	○
98	ミツバウツギ	ミツバウツギ	*Staphylea bumalda*			○
99	ツゲ	フッキソウ	*Pachysandra terminalis*	○	○	○
100	クロウメモドキ	エゾクロウメモドキ	*Rhamnus japonica*			○
101	ブドウ	ノブドウ	*Ampelopsis glandulosa* var. *heterophylla*			○
102		ヤマブドウ	*Vitis coignetiae*	○	○	○
103	スミレ	タチツボスミレ	*Viola grypoceras*		○	
104		ケタチツボスミレ	*Viola grypoceras* var. *pubescens*		○	
105		オオタチツボスミレ	*Viola kusanoana*		○	
106		ツボスミレ	*Viola verecunda*		○	
107	ウリ	アマチャヅル	*Gynostemma pentaphyllum*		○	○
108	アカバナ	タニタデ	*Circaea erubescens*			○
109		メマツヨイグサ	*Oenothera biennis*	○	○	○
110	ミズキ	ミズキ	*Cornus controversa*		○	○
111	ウコギ	ケヤマウコギ	*Acanthopanax divaricatus*		○	○
112		ウド	*Aralia cordata*		○	○
113		タラノキ	*Aralia elata*	○	○	○
114		ハリギリ	*Kalopanax pictus*	○	○	○
115	セリ	オオバセンキュウ	*Angelica genuflexa*			○
116		セントウソウ	*Chamaele decumbens*		○	
117		ミツバ	*Cryptotaenia japonica*			○
118		ノラニンジン	*Daucus carota*			○
119		オオハナウド	*Heracleum dulce*	○	○	
120		セリ	*Oenanthe javanica*		○	○
121		ヤブニンジン	*Osmorhiza aristata*		○	○
122		ウマノミツバ	*Sanicula chinensis*		○	○
123		カノツメソウ	*Spuriopimpinella calycina*			○
124	イチヤクソウ	ベニバナイチヤクソウ	*Pyrola incarnata*		○	
125		イチヤクソウ	*Pyrola japonica*			○
126	モクセイ	ヤチダモ	*Fraxinus mandshurica* var. *japonica*	○	○	○
127		イボタノキ	*Ligustrum obtusifolium*			○
128		ハシドイ	*Syringa reticulata*			○
129	リンドウ	フデリンドウ	*Gentiana zollingeri*		○	
130	アカネ	クルマバソウ	*Asperula odorata*		○	
131		キクムグラ	*Galium kikumugura*			○
132		オククルマムグラ	*Galium trifloriforme*			○
133	ムラサキ	ノハラムラサキ	*Myosotis arvensis*			○
134	シソ	エゾシロネ	*Lycopus uniflorus*			○
135	ゴマノハグサ	ビロードモウズイカ	*Verbascum thapsus*	○		○
136	ハエドクソウ	ハエドクソウ	*Phryma leptostachya* ssp. *asiatica*			○
137	オオバコ	オオバコ	*Plantago asiatica*			○
138	スイカズラ	エゾニワトコ	*Sambucus racemosa* ssp. *kamtschatica*	○	○	○
139		カンボク	*Viburnum opulus* var. *calvescens*		○	○
140	レンプクソウ	レンプクソウ	*Adoxa moschatellina*	○	○	
141	キキョウ	ツルニンジン	*Codonopsis lanceolata*			○

表９−３　史跡カリンバ遺跡　植物確認種目録

	科名	種名	学名	4月	5月	8月
142	キキョウ	タニギキョウ	*Peracarpa carnosa* var. *circaeoides*		○	
143	キク	ノブキ	*Adenocaulon himalaicum*			○
144		オオヨモギ	*Artemisia montana*	○	○	○
145		エゾゴマナ	*Aster glehnii*			○
146		ヨブスマソウ	*Cacalia hastata* ssp. *orientalis* var. *orientalis*		○	○
147		チシマアザミ	*Cirsium kamtschaticum*		○	○
148		ヒメジョオン	*Erigeron annuus*	○	○	○
149		ヒメムカシヨモギ	*Erigeron canadensis*			○
150		ヒヨドリバナ	*Eupatorium chinense* var. *oppositifolium*			○
151		ヨツバヒヨドリ	*Eupatorium chinense* ssp. *sachalinense*			○
152		キクイモ	*Helianthus tuberosus*			○
153		ブタナ	*Hypochoeris radicata*		○	○
154		ヤマニガナ	*Lactuca raddeana* var. *elata*			○
155		アキタブキ	*Petasites japonicus* var. *giganteus*	○	○	○
156		オオハンゴンソウ	*Rudbeckia laciniata*		○	○
157		ハンゴンソウ	*Senecio cannabifolius*			○
158		セイタカアワダチソウ	*Solidago altissima*			○
159		オオアワダチソウ	*Solidago gigantea var. leiophylla*		○	○
160		エゾタンポポ	*Taraxacum hondoense*		○	
161		セイヨウタンポポ	*Taraxacum officinale*		○	○
162	ユリ	ギョウジャニンニク	*Allium victorialis* var. *platyphyllum*		○	
163		ホウチャクソウ	*Disporum sessile*			○
164		タチギボウシ	*Hosta sieboldii* var. *rectifolia*			○
165		オオウバユリ	*Lilium cordatum* var. *glehnii*	○	○	○
166		マイヅルソウ	*Maianthemum dilatatum*		○	○
167		オオアマドコロ	*Polygonatum odoratum* var. *maximowiczii*		○	○
168		ユキザサ	*Smilacina japonica*		○	○
169		オオバナノエンレイソウ	*Trillium kamtschaticum*	○	○	
170		エンレイソウ	*Trillium smallii*		○	
171		バイケイソウ	*Veratrum grandiflorum*	○	○	○
172	ツユクサ	ツユクサ	*Commelina communis*			○
173	イネ	コヌカグサ	*Agrostis alba*			○
174		ヤマアワ	*Calamagrostis epigeios*			○
175		カモガヤ	*Dactylis glomerata*	○	○	○
176		シバムギ	*Elymus repens*			○
177		コウボウ	*Hierochloe bungeana*		○	
178		ススキ	*Miscanthus sinensis*			○
179		クサヨシ	*Phalaris arundinacea*			○
180		オオアワガエリ	*Phleum pratense*		○	○
181		ヨシ	*Phragmites australis*		○	○
182		スズメノカタビラ	*Poa annua*			○
183		ナガハグサ	*Poa pratensis*			○
184		エゾミヤコザサ	*Sasa chartacea*	○	○	○
185		チシマザサ	*Sasa kurilensis*		○	
186		クマイザサ	*Sasa senanensis*		○	○
187		エノコログサ	*Setaria viridis*			○
188	サトイモ	マムシグサ	*Arisaema serratum*		○	○
189		ミズバショウ	*Lysichiton camtschatcense*	○	○	○
190		ザゼンソウ	*Symplocarpus fotidus* var. *latissimus*	○	○	
191		ヒメザゼンソウ	*Symplocarpus nipponicus*		○	
192	ウキクサ	ウキクサ	*Spirodela polyrhiza*			○
193	ガマ	ガマ	*Typha latifolia*			○
194	カヤツリグサ	アオスゲ	*Carex breviculmis*		○	○
195		カサスゲ	*Carex dispalata*		○	○
196		ビロードスゲ	*Carex fedia* var. *miyabei*		○	○
197		オオカサスゲ	*Carex rhynchophysa*			○
198		アブラガヤ	*Scirpus wichurae*			○
199	ラン	サイハイラン	*Cremastra appendiculata*	○		
200		コケイラン	*Oreorchis patens*	○		
	65科	200種類		32科	46科	59科
				49	121	151
				種類	種類	種類
参考（菌類）	モエギタケ	ニガクリタケ(毒)	*Naematoloma fasciculare*		○	
	フウセンタケ	ヒメワカフサタケ	*Hebeloma sacchariolens*			○
	ベニタケ	カワリハツ	*Russula cyanoxantha*			○
	マンネンタケ	コフキサルノコシカケ	*Eifvingia applanata*			○
	4科	4種類		0科	1科	3科
				0種類	1種類	3種類

※高等植物の種名、学名及び配列は「植物目録1987」（環境庁, 1988）によった。
　菌類の種名、学名及び配列は「原色日本新菌類図鑑Ⅰ、Ⅱ」（保育社, 1989）によった。

重要な植物としては「北海道の希少野生生物　北海道レッドデータブック 2001」に希少種（存続基盤が脆弱な種または亜種）として掲載されているフクジュソウが確認された。フクジュソウの確認状況は表 10 の通りである。

表10　史跡カリンバ遺跡　フクジュソウ確認状況

<table>
<tr><th colspan="3">種名(学名)</th><th>一般生態</th></tr>
<tr><td colspan="3">フクジュソウ(Adonis ramosa)</td><td rowspan="3">草丈10～30cmの多年草。開花期は3～5月で、早春の植物である。径3～4cmの黄色の花を咲かせる。明るい広葉樹林の下、川岸の土手、山すその林内などに生育する。分布域は北海道～四国。</td></tr>
<tr><th colspan="3">選定基準</th></tr>
<tr><td colspan="3">希少種(北海道レッドデータブック)</td></tr>
<tr><th>番号</th><th>確認日時</th><th>確認個体数</th><th>確認状況</th></tr>
<tr><td>1</td><td>H21.4.20</td><td>5株</td><td>低湿地のハンノキ群落。4mの範囲に散生。</td></tr>
<tr><td>2</td><td>H21.4.20</td><td>約30株</td><td>自然公園のハンノキ群落。15mの範囲に散生。</td></tr>
<tr><td>3</td><td>H21.4.20</td><td>10株</td><td>自然公園のハンノキ群落。5mの範囲に散生。</td></tr>
<tr><td>4</td><td>H21.4.20</td><td>5株</td><td>自然公園のハンノキ群落。3mの範囲に散生。</td></tr>
<tr><td>5</td><td>H21.5.15</td><td>4株</td><td>段丘面のミズナラ林。3mの範囲に散生。</td></tr>
</table>

調査地の植生は表 11 に示す９タイプの植物群落に区分された。植生区分図は図 10 に示した通りである。

表11　史跡カリンバ遺跡　植生区分一覧

	群落名	備考(推定される成立要因)
自然林	ヤチダモ・ハンノキ群落	低湿地、カリンバ自然公園の湿性林
	ミズナラ群落	耕作跡に回復してきた植生
	ヤナギ群落	伐採跡や裸地から回復してきた植生
	シラカンバ・オニグルミ等二次林	古い屋敷林や耕作跡に回復してきた植生
人工林	カラマツ植林	防風林の名残
	広葉樹植林	カリンバ自然公園に植栽
草原	雑草群落	耕作跡や遺跡発掘跡に回復してきた植生
その他	水草群落	旧ため池
	公園芝生	カリンバ自然公園

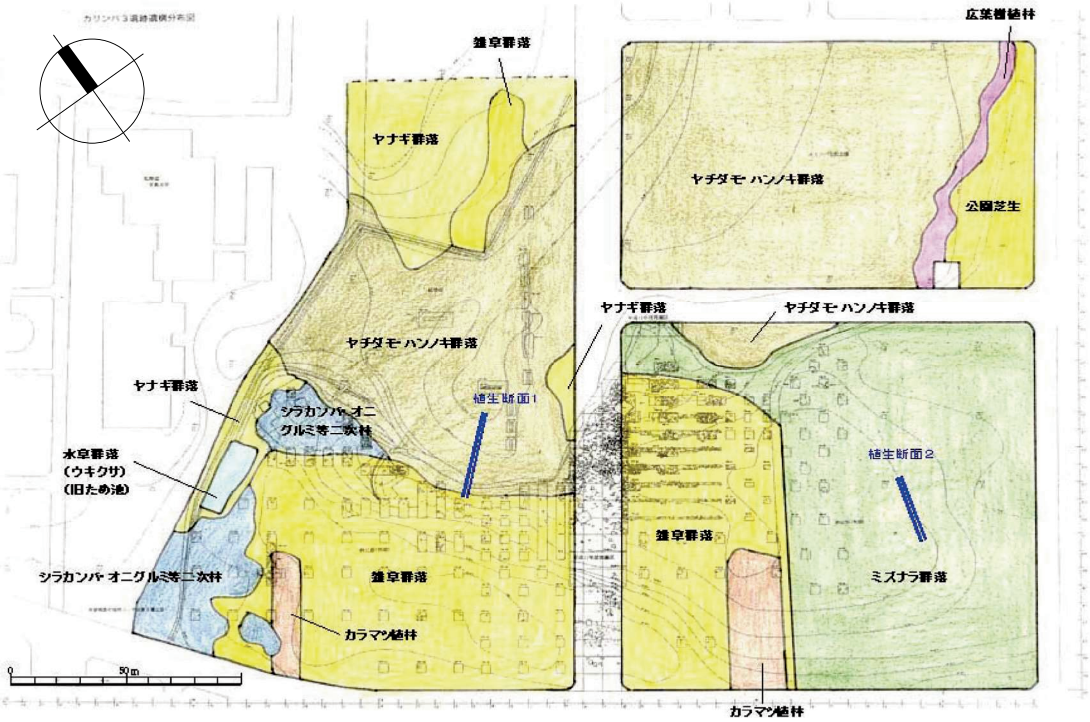

図10　史跡カリンバ遺跡　植生区分図

植生断面調査は、調査地の植生を代表する群落であると考えられるヤチダモ・ハンノキ群落およびミズナラ群落の２か所で行った（図 10）。植生断面図は図 11・12 に示す通りである。

概要：最上層はハンノキ（樹高 20m 前後）が優占しているが、次世代の亜高木・低木はヤチダモ、ハルニレ、ヤマモミジが多い。

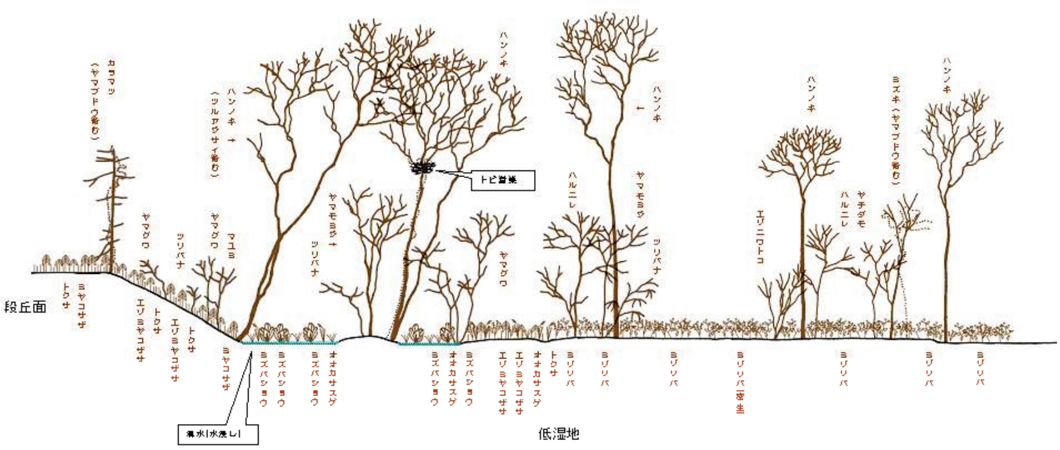

図 11　史跡カリンバ遺跡　植生断面図（１）　低湿地のハンノキ群落

概要：ミズナラが優占し、コナラ、カシワなどが混じる(樹高 15m～16m)。林内にはシラカンバもみられる。ヤマブドウの絡んだ木が多い。

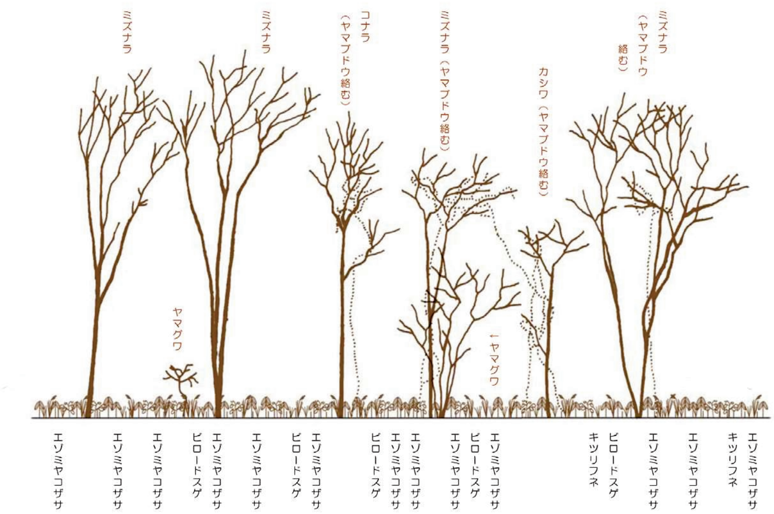

図 12　史跡カリンバ遺跡　植生断面図（２）　段丘面のミズナラ群落

（４）動物

Ⅱ章２節（３）植物で既述した「カリンバ遺跡における環境調査」の植物調査中に任意確認された動物は、鳥類が 20 科 34 種、両生類が１科１種、哺乳類が２科２種、昆虫類が 34 科 64 種、魚類が１科１種であった。爬虫類および夜間のコウモリ類は確認されなかった。鳥類確認種目録を表 12、その他動物確認種目録を表 13 に示す。

表12　史跡カリンバ遺跡　鳥類確認種目録

目名	科名	種名	学名	4月	5月	8月
コウノトリ	サギ	アオサギ	*Ardea cinerea*	○		
カモ	カモ	オシドリ	*Aix galericulata*	○		
		マガモ	*Anas platyrhynchos*	○	○	
タカ	タカ	トビ	*Milvus migrans*	○	○	
	ハヤブサ	チゴハヤブサ	*Falco subbuteo*		○	○
ハト	ハト	キジバト	*Streptopelia orientalis*	○	○	○
キツツキ	キツツキ	アカゲラ	*Dendrocopos major*	○	○	○
		コゲラ	*Dendrocopos kizuki*	○	○	
スズメ	ヒバリ	ヒバリ	*Alauda arvensis*	○	○	
	セキレイ	ハクセキレイ	*Motacilla alba*	○	○	○
	ヒヨドリ	ヒヨドリ	*Hypsipetes amaurotis*	○	○	○
	モズ	モズ	*Lanius bucephalus*		○	
	ツグミ	アカハラ	*Turdus chrysolaus*		○	
		ツグミ	*Turdus naumanni*	○	○	
	ウグイス	ウグイス	*Cettia diphone*	○	○	
		センダイムシクイ	*Phylloscopus coronatus*		○	
	ヒタキ	オオルリ	*Cyanoptila cyanomelana*		○	
	シジュウカラ	ハシブトガラ	*Parus palustris*	○	○	
		ヒガラ	*Parus ater*	○	○	
		ヤマガラ	*Parus varius*		○	
		シジュウカラ	*Parus major*	○	○	○
	ゴジュウカラ	ゴジュウカラ	*Sitta europaea*	○	○	
	ホオジロ	ホオジロ	*Emberiza cioides*		○	
		アオジ	*Emberiza spodocephala*	○	○	
	アトリ	カワラヒワ	*Carduelis sinica*	○	○	○
		マヒワ	*Carduelis spinus*	○		
		ベニマシコ	*Uragus sibiricus*	○		
		イカル	*Eophona personata*		○	
		シメ	*Coccothraustes coccothraustes*	○	○	○
	ハタオリドリ	ニュウナイスズメ	*Passer rutilans*	○	○	
	ムクドリ	コムクドリ	*Sturnus philippensis*		○	
		ムクドリ	*Sturnus cineraceus*	○	○	○
	カラス	ハシボソガラス	*Corvus corone*		○	○
		ハシブトガラス	*Corvus macrorhynchos*	○	○	○
6目	20科	34種		24種	30種	11種

※種名、学名及び配列は「日本鳥類目録　改訂第6版」（日本鳥学会，2000）によった。
　鳥類は個体目撃または鳴き声による確認。

表13　史跡カリンバ遺跡　その他の動物確認種目録

分類群	目名	科名	種名	学名	4月	5月	8月
両生類	カエル	アカガエル	エゾアカガエル(卵嚢、幼生、成体目撃)	*Rana pirica*	○		
爬虫類	確認なし						
哺乳類	ネズミ	ネズミ	エゾアカネズミ(食痕確認)	*Apodemus speciosus ainu*		○	
			ネズミ類(通路跡確認)	Muridae	○		
	ネコ	イヌ	キタキツネ(巣穴、個体目撃)	*Vulpes vulpes*	○		
昆虫類	トンボ	アオイトトンボ	アオイトトンボ	*Lestes sponsa*			○
			オツネントンボ	*Sympecma paedisca paedisca*			○
		トンボ	ナツアカネ	*Sympetrum darwinianum*			○
			マユタテアカネ	*Sympetrum eroticum eroticum*			○
			アキアカネ	*Sympetrum frequens*			○
			ノシメトンボ	*Sympetrum infuscatum*			○
	バッタ	コオロギ	マダラスズ	*Pteronemobius nigrofasciatus*			○
			エゾエンマコオロギ	*Teleogryllus yezoemma*			○
		キリギリス	ハネナガキリギリス	*Gampsocleis ussuriensis*			○
			ヒメクサキリ	*Homorocoryphus jezoensis*			○
		バッタ	ヒナバッタ	*Chorthippus brunneus*			○
			トノサマバッタ	*Locusta migratoria*			○
			ナキイナゴ	*Mongolotettix japonicus japonicus*			○
			コバネイナゴ	*Oxya yezoensis*			○
		ヒシバッタ	ヒシバッタ	*Tetrix japonica*			○
	ハサミムシ	クギヌキハサミムシ	キバネハサミムシ	*Forficula mikado*			○
	カメムシ	ツノゼミ	ツノゼミ	*Orthobelus flavipes*			○
		アメンボ	アメンボ科の一種	*Gerris* sp.		○	
		マツモムシ	マツモムシ	*Notonecta triguttata*	○		
		カスミカメムシ	ナカグロカスミカメ	*Adelphocoris suturalis*			○
		カメムシ	トゲカメムシ	*Carbula humerigera*			○
			ナガメ	*Eurydema rugosa*		○	
	コウチュウ	シデムシ	クロヒラタシデムシ	*Phosphuga atrata*			○
			ヒラタシデムシ	*Silpha paerforata venatoria*			○
		コガネムシ	ヒメビロウドコガネ	*Maladera orientalis*		○	
			ヒメコガネ	*Anomala rufocuprea*			○
			カブトムシ	*Allomyrina dichotoma dichotoma*			○
		コメツキムシ	クチブトコメツキ	*Silesis musculus musculus*			○
		ジョウカイモドキ	ケシジョウカイモドキ	*Dasytes vulgaris*		○	
		オオキノコムシ	クロチビオオキノコ	*Tritoma niponensis*		○	
昆虫類	コウチュウ	テントウムシ	ヒメアカホシテントウ	*Chilocorus kuwanae*			○
			シロトホシテントウ	*Calvia decemguttata*			○
			ナナホシテントウ	*Coccinella septempunctata*			○
			ナミテントウ	*Harmonia axyridis*			○
		カミキリムシ	アカハナカミキリ	*Corymbia succedanea*			○
			トゲバカミキリ	*Rondibilis saperdina*			○
		ハムシ	ヨモギハムシ	*Chrysolina aurichalcea*			○
			ヤナギルリハムシ	*Plagiodera versicolora*		○	○
			キクビアオハムシ	*Agelasa nigriceps*		○	○
			ハンノキハムシ	*Agelastica coerulea*		○	○
			ウリハムシモドキ	*Atrachya menetriesi*			○
			ニレハムシ	*Pyrrhalta maculicollis*			○
			オオキイロマルノミハムシ	*Argopus balyi*			○
			ミドリトビハムシ	*Crepidodera japonica*		○	
	ハチ	アリ	シワクシケアリ	*Myrmica kotokui*			○
			クロヤマアリ	*Formica japonica*			○
			クロクサアリ	*Lasius fuliginosus*			○
			トビイロケアリ	*Lasius niger*			○
		スズメバチ	ケブカスズメバチ	*Vespa simillima simillima*			○
		ミツバチ	セイヨウオオマルハナバチ	*Bombus terrestris*		○	○
	シリアゲムシ	シリアゲムシ	ブライヤシリアゲ	*Panorpa pryeri*			○
	ハエ	ガガンボ	モイワガガンボ	*Tipula moiwana*			○
		ハナアブ	シマハナアブ	*Eristalis cerealis*			○
		フンバエ	ヒメフンバエ	*Scathophaga stercoraria*		○	
		クロバエ	ミヤマキンバエ	*Lucilia papuensis*			○
		ヤドリバエ	クチナガハリバエ	*Prosena siberita*			○
	チョウ	シロチョウ	オオモンシロチョウ	*Pieris brassicae brassicae*		○	
			スジグロシロチョウ	*Pieris melete melete*			○
			エゾスジグロシロチョウ	*Pieris dulcinea*		○	
			モンシロチョウ	*Pieris rapae crucivora*		○	
		シジミチョウ	ベニシジミ	*Lycaena phlaeas daimio*			○
		タテハチョウ	クジャクチョウ	*Inachis io geisha*	○		○
		ジャノメチョウ	ジャノメチョウ	*Minois dryas bipunctata*			○
		カノコガ	カノコガ	*Amata fortunei*			○
魚類	トゲウオ	トゲウオ	エゾトミヨ	*Pungitius tymensis*	○		
	13目	38科	68種		6種	15種	53種

※種名、学名及び配列は「日本産野生生物目録−脊椎動物編−」(環境庁, 1993)によった。
また、昆虫類は「日本産野生生物目録ー無脊椎動物編Ⅱ」(環境庁, 1995)によった。
昆虫類はすべて個体目撃による確認。

重要な動物はオシドリ(鳥類)、ナツアカネ(昆虫類)、エゾトミヨ(魚類)の３種が確認された。これらの確認状況は表 14 の通りである。

表14　史跡カリンバ遺跡　重要な動物確認状況

種名(学名)			一般生態
オシドリ(*Aix galericulata*)			北海道では夏鳥。周囲に樹木の多い山地の河川や湖沼などに生息する。周囲に木の茂った薄暗い環境を好む。冬は本州以南に南下する。東アジア特産種で、日本は主要分布地と考えられている。主に植物質の餌を食する。産卵期は４～７月頃。
選定基準			
希少種(北海道レッドデータブック)			
番号	確認日時	確認個体数	確認状況
1	H21.4.20	2個体	旧ため池付近の木に止まる2個体(つがい)が確認された。

種名(学名)			一般生態
ナツアカネ（*Sympetrum darwinianum*）			成虫の出現は7月下旬～10月上旬。平地から丘陵地の池沼に生息している。道南以外では最近少なくなっている。成虫は雌雄ともに枝先や草の先端部に好んで静止する。産卵方法は雌が連結または単独で打空産卵をする。卵の状態で越冬し翌春に孵化する。
選定基準			
情報不足(環境省レッドリスト)			
希少種(北海道レッドデータブック)			
番号	確認日時	確認個体数	確認状況
2	H21.8.26	多数	カリンバ自然公園の遊歩道で多数確認された。

種名(学名)			一般生態
エゾトミヨ（*Pungitius tymensis*）			河川の下流域、湿地や山地の湖沼に生息する。川岸の水草が繁茂する緩流部を好む。純淡水魚。ヨコエビ、イトミミズ、ユスリカ等動物性の餌を食べる。水草の根元などに水草の繊維を集めて巣をつくり産卵する。北海道のみに分布する。
選定基準			
準絶滅危惧(環境省レッドリスト)			
希少種(北海道レッドデータブック)			
番号	確認日時	確認個体数	確認状況
3	H21.4.20	20個体以上	低湿地の湧水部周辺にできた水たまりで確認された。
4	H21.4.20	100個体以上	カリンバ自然公園の水湿地で確認された。低湿地とは水みちがつながっている。

（５）水文環境

Ⅱ章２節（３）植物で既述した「カリンバ遺跡における環境調査」の調査地には地表面が水に浸かった冠水箇所が各所でみられた。この水源は段丘面の下から低湿地へ向けて発生している少量の湧水であり、肉眼で確認できる噴出孔が１か所で認められた(図 13)。湧水は低湿地一帯を冠水させ、市道団地中央通を横断したあとカリンバ自然公園内に流下し、再び広い水湿地を形成した後、下水へ流れ去っていることが確認された。

そのほかに、調査地内には段丘上に旧ため池、低湿地に素掘り水路が認められ、ともに常時滞水している。これらの水湿地、旧ため池、素掘り水路は互いに水の流入出、連絡は確認されなかった。

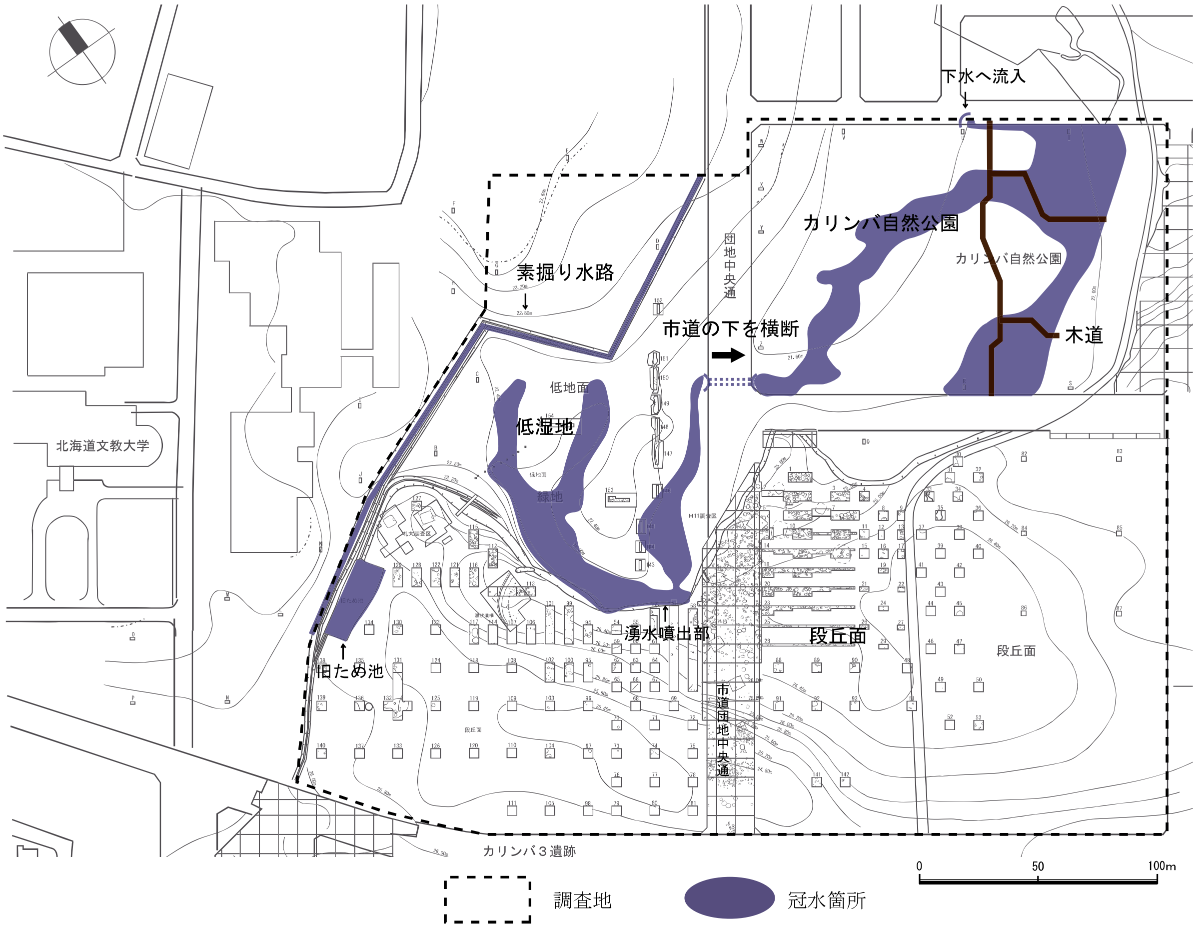

図13　史跡カリンバ遺跡　水文環境の確認位置図

（６）交通

黄金地区は交通の便に恵まれており、史跡カリンバ遺跡の南側約 800mには JR 北海道千歳線の恵庭駅がある。恵庭駅には快速列車が停車し、札幌駅とは日中約 15 分間隔、所要時間 23 分で、新千歳空港駅とは所要時間 13 分で結ばれている。また、史跡の北側約 300m には国道 36 号線恵庭バイパスが通っており、札幌と室蘭を結んでいる。

バスは市内を結ぶ「えにわコミュニティバス」が黄金地区を１日　10　便前後通っており、史跡のすぐ脇には「文教大学前」のバス停がある。

（７）歴史的環境

黄金地区はかつて戸磯の一部であった。「ちとせ地名散歩」によれば、戸磯はアイヌ語の「Toy-so（トイソウ)」が転訛したと考えられている（長見　1976)。トイは土、ソウは滝の意である。

戸磯におけるヒトの歴史は、旧石器時代にさかのぼる。ユカンボシ川流域のユカンボシＥ10 遺跡で後期旧石器時代の黒曜石製細石刃核、黒曜石製や頁岩製のスクレイパー等が発見されている。

縄文時代には旧カリンバ川、トーウイソ川、ユカンボシ川の小河川沿いに遺跡が多数みつかっている。縄文時代早期では、カリンバ２遺跡で集落跡、ユカンボシＥ８遺跡で墓域がみつかっている。縄文時代中期から後期初頭にかけては、カリンバ１・２遺跡と史跡カリンバ遺跡で長さ 10mを超える大型住居跡が 13 基、縄文時代後期中葉にはユカンボシＥ３・Ｅ８遺跡で拠点集落が確認されている。縄文時代後期後葉から晩期前葉にかけては、史跡カリンバ遺跡で漆塗装身具や玉等が多数副えられた土坑墓がつくられた。

続縄文時代後葉から擦文時代前期にかけては、ユカンボシＥ９遺跡で生活が営まれた痕跡が残されており、ユカンボシＥ７遺跡では金属製品が副葬された土坑墓群がみつかっている。カリンバ２遺跡でも擦文時代初頭の墓域が確認されている。また、史跡カリンバ遺跡では擦文時代前期の集落跡があり、カリンバ２遺跡の擦文時代中～後期の竪穴住居跡からは道内でも数点しか出土していない銅鋺が出土している。

アイヌ文化期は、史跡カリンバ遺跡、カリンバ１・２・４遺跡等で近世とみられる平地住居跡、高床倉庫、土坑墓が多数確認されている。

戸磯の地名が文献史料上に現れるのは、安政５（1858）年と伝えられる松浦武四郎の「西蝦夷日誌」である。その中に「トイシャウ（小川、急流、平磐なり）、此川イジャラに落、名義土滝の儀なり。」とある。

明治 19（1886）年になると山口県和木、岩国地方から 358 人が恵庭に集団入植したが、このうち７戸が戸磯に入植した。その後明治 30（1897）年には 17 戸、明治 41（1908）年には 29 戸と徐々に戸磯地区への入植者の数は増えていった。はっきりとした記録は残されていないが、戸磯地区ではユカンボシ川、トーウイソ川、旧カリンバ川の水を利用して明治 30 年頃から米作りが始まったと思われる。カリンバ川水系は恵庭駅付近に源流部があり北東方向に流れ千歳川に注いでいたが、明治末期にはこの水系で造田を試みる者が多く、大正２（1913）年には松田義次氏他 15 名による水利権の出願があり、面積 60ha に対し大正４（1915）年に水利権の許可がなされている。その後も冷害との戦いであったが、機械化等技術の進歩により、収量も増加していった。昭和 40（1965）年前後にはブルドーザーによる水田の大型化と区画整理、そして造田が行われる一方、戸磯地区の都市化も進んでいった。昭和 45（1970）年になると国の減反政策が始まり、水稲耕作面積は半減した。さらに昭和 53（1978）年には水田利用再編成対策方針の一期事業で畑に転換され、また都市化による水田の宅地化により、遂に戸磯地区の水稲耕作面積は一割ほどになって、耕作農家もわずか数戸となった。

その後、昭和 60（1985）年度には黄金北土地区画整理組合、平成７（1995）年度には黄金土地区画整理組合が組織され、黄金・戸磯地区の宅地造成事業が行われた。市教委はこれに先立つ昭和 58（1983）～平成２（1990）年度に埋蔵文化財の試掘調査を行い、周知の埋蔵文化財包蔵地である城遺跡の範囲を確認すると共に、新たにカリンバ１・２・４遺跡を確認した。それにより城遺跡はカリンバ３遺跡（現「史跡カリンバ遺跡」）に遺跡名を変更した。黄金北土地区画整理組合に伴う発掘調査は昭和 61（1986）・62 年、黄金土地区画整理組合に伴う発掘調査は平成７～13（2001）年に行われた。なかでも平成 11（1999）年度の市道団地中央通建設に伴うカリンバ３遺跡（現「史跡カリンバ遺跡」）の発掘調査で合葬墓４基が発掘され、平成 17（2005）年に史跡に指定された。現在の黄金地区は農家が一軒もなく、宅地が急増している。また、私立大学、大型商業施設、各種公共施設、総合病

院等が建ち、急速に都市化が進んでいる。

（８）埋蔵文化財包蔵地

現在の黄金地区を含む旧戸磯地区では、Ⅱ章１節（７）埋蔵文化財包蔵地で既に述べたように旧カリンバ川、トーウイソ川、ユカンボシ川の小河川沿いに多数の遺跡がみつかっている。史跡カリンバ遺跡以外の旧カリンバ川沿いの遺跡は以下の通りである。

①**名称**：カリンバ１遺跡

所在地：黄金中央１丁目 12 ほか。史跡カリンバ遺跡の上流側約 400m、旧カリンバ川とトーウイソ川に挟まれた標高 26～29mの低位段丘上に位置する。

時代：縄文時代～アイヌ文化期

調査年度：平成 11（1999）～13（2001）年度

調査面積：19,741 ㎡

調査機関名：市教委

調査原因：緊急調査（黄金土地区画整理事業）

特記事項：縄文時代の竪穴住居跡 43 基、土坑 211 基、焼土 294 基、Ｔピット･杭穴等 328 基、アイヌ文化期の建物跡 17 基、墓３基、焼土等 460 基が検出された。縄文時代中期の長さ 10mを超える大型住居跡が３基みつかっており、なかでも１基は長さ約 30mで壁立式と推定される。遺物は縄文時代からアイヌ文化期までが出土しており、土器片 123,779 点、石器等 102,144 点を数える。主な時期は縄文時代早期東釧路Ⅳ式期、中期円筒土器上層式期・柏木川式期である。

報告書：市教委　2001a・2003c・2005a・b

②**名称**：カリンバ２遺跡

所在地：黄金中央４丁目７ほか。史跡カリンバ遺跡のすぐ上流、旧カリンバ川とトーウイソ川に挟まれた標高 25～29mの低位段丘上に位置する。

時代：縄文時代～アイヌ文化期

調査年度：昭和 61（1986）・62（1987)、平成７（1995）～10（1998）年度

調査面積：45,115 ㎡

調査機関名：市教委

調査原因：緊急調査（黄金北土地区画整理事業、黄金土地区画整理事業）

特記事項：縄文時代の竪穴住居跡 88 基、土坑 394 基、焼土 438 基、Ｔピット･杭穴等 90 基、擦文時代の竪穴住居跡３基、土坑 45 基、焼土等 138 基、アイヌ文化期の建物跡 73 基、墓９基、焼土等 569 基が検出された。縄文時代早期後半には大きな集落が、縄文時代中期から後期初頭にかけては長さ 10mを超える大型住居跡が９基つくられた。遺物は縄文時代からアイヌ文化期までが出土しており、土器片 281,730 点、石器等 637,981 点を数える。主な時期は縄文時代早期コッタロ式期・中茶路式期、中期円筒土器上層式期・北筒式期、後期余市式期、晩期後葉、擦文時代初頭北大Ⅲ式期である。また土坑出土の両頭石槍は平成 17 年６月 16 日付けで市指定文化財となっている。

報告書：市教委　1987・1989・1998・2000・2005c

③**名称**：カリンバ４遺跡

所在地：黄金南６丁目２ほか。史跡カリンバ遺跡のすぐ下流、旧カリンバ川右岸標高 23～27ｍの低位段丘上に位置する。

時代：縄文時代～アイヌ文化期

調査年度：平成８（1996）～12（2000）年度

調査面積：10,227 ㎡

調査機関名：市教委

調査原因：緊急調査（黄金土地区画整理事業）

特記事項：縄文時代の竪穴住居跡 17 基、土坑 10 基、焼土 31 基、Ｔピット･杭穴等 62 基、縄文・続縄文時代の土坑 115 基、焼土 239 基、アイヌ文化期の建物跡 17 基、墓２基、焼土等 989 基が検出された。遺物は縄文時代からアイヌ文化期までが出土しており、土器片 39,349 点、石器等 72,066 点を数える。主な時期は縄文時代後期余市式期、晩期後葉、続縄文時代後半後北 C2･D 式期である。

報告書：市教委　1997b・1999・2001b